

授業改善等に関する報告書（2023 年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

【2023（後期）教職課程】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
英語科教育法（１）	中山 誠一	かなりハードなスケジュール・内容にも関わらず、学生さんが最後までついてきてくれたことに感謝したい。来年度は今年度の反省を踏まえて、さらなる授業内容の充実に務めたい。
英語科教育法（４）	中山 誠一	かなりハードなスケジュール・内容にも関わらず、学生さんが最後までついてきてくれたことに感謝したい。来年度は今年度の反省を踏まえて、さらなる授業内容の充実に務めたい。
家庭科教育法（１）	市毛 祐子	はじめて模擬授業を行って、教えることの難しさを実感したのではないのでしょうか。これから皆さんが、学ぶ楽しさを味わえるよう、授業の構成、説明の仕方やプレゼンテーション、資料等の工夫・改善に努めていきます。皆さんも多くの知識を吸収すべく貪欲に学んでいきましょう。
家庭科教育法（３）	市毛 祐子	実際に模擬授業を行うと、学習指導案どおりに授業が進まなかったり、自分の説明が思うようにできなかったりするなど、「教える」ことは、頭で考えていたよりはるかに難しいということを実感したと思います。と同時に、他の人の模擬授業から多くのことを学んだことでしょう。教材研究や学習指導案の作成などで忙しかったことと思いますが、この授業を通して、専門的な内容はもとより、課題をこなす上での時間の使い方や、優先順位のつけ方なども身についたことと思います。こうした気づきや学びをこれからの様々な場面で思い出し、活かしてくれることを願っています。私も、皆さんが、より意欲的に取り組めるよう、資料の内容や説明の仕方を工夫するとともに、インタラクティブな授業を心がけていきます。
介護支援基礎論	早尾 美子	本授業は、充実した介護等体験ができるよう、体験先に関する基本や体験先で出会う障害者や高齢者等との関わり方のポイントについて学び、また、学外での活動を円滑に行うための社会的態度も修得することをねらいとしました。 アンケートの分析結果を受け、以下のような改善を図っていきます。 授業の進め方については、授業開始時に、時間配分などを明確にし、授業全体の見通しを持ちやすくします。各回の進み方のペースも同じよう進めるように努めます。 配布資料や視聴覚教材などについては、提示する資料を精選し、また説明後に理解について確認し、わかりやすい授業を目指します。 双方向については、manabaを活用し、質問など受付、丁寧に対応したいと考えております。
教育課程論	清田 夏代	評価の結果については、概ね納得している。オンデマンド授業については単位を認める条件等の履修上の重要事項をmanabaで知らせるため、まだ周知が徹底できていないという課題を感じている。授業開始前、開始直後等、複数回、リマインダ付きで周知することを試みたい。
教育原理（栄養）	清田 夏代	評価の結果については概ね納得している。平均より低い項目については改善をはかり、今後もより良い授業運営に努めていきたい。
教育制度（栄養）	清田 夏代	現段階で授業評価を行なった学生がいないようであるが、教育原理（栄養）と連続開講の授業であり、履修者も全員同じであるので、教育原理の評価を参考にしたい。
教育相談	宮脇 郁	アンケートへのご協力、どうもありがとうございました。急遽私が代講を務めさせていただいたこともあり、正直なところ自分としては反省点だらけです。 ・説明のわかりやすさ（Q7）はまずまずですが、教材のわかりやすさ（Q9）はもっと改善する余地があります。バウボを見やすく改善するとともに、教育現場での具体例を増やしたいです。 ・「さらに学びたいか」の結果がもうひとつでした（Q13）。学校現場での教育相談の重要性が伝わりきらなかったのかなと反省しています。こちらについても具体的なケースをもっと紹介するとよいかもしれません。一方、自由記述の回答によると、カウンセリングマインドの重要性に気付いたという回答が複数ありました。カウンセリングマインドは教育相談のキー概念なので、その重要性を認識してもらえたのはよかったです。 ・自由記述で「プリントを配布してほしかった」という回答が複数ありました。プリントは毎回manabaで配布していたので、これはおそらく「紙で配布してほしかった」という意味かと思います。この点に関しては、本授業に限らず大学では今後紙での配布はますます減っていき、電子媒体での配布が主流になっていくことが予想されます。学生の皆さんも、その方式に少しずつ慣れていただきたいと思います。 至らない点も多々ある中、半期の間皆さんと一緒に学ぶことができて、私としても大変勉強になりました。どうもありがとうございました。機会があればまた一緒に勉強しましょう。

【2023（後期）教職課程】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
教育相談	櫻井 成美	アンケートへのご回答、ありがとうございました。 授業への取り組みの様子やアンケートの結果から、全体的に授業に関心を持ち、予習・復習課題や授業中の課題、ディスカッションにも丁寧かつ熱心に取り組んでくださっている学生さんが多かったように感じました。 アンケートの中に「パソコンを持参するのが重いので、資料を紙で配ってほしい」とのご意見がありましたが、本授業で配布する資料は複数枚に渡るものが多く、印刷すると相当の分量になってしまうため、今後も基本的にはmanabaでの資料提示を予定しています。授業中にもアナウンスいたしました。PCは大学でも借りることができるそうなので、ご自身のPCの持ち運びに負担を感じる方は、お手数ですが、ぜひ学内で借りていただきたいと思います。 そのほかのご意見についても、今後の授業に役立てたいと思います。 今後も講義とディスカッションなどの主体的なワークをバランス良く行っていきたいと考えています。 半期間の授業、お疲れさまでした。今後も教職の授業、ぜひ頑張ってください。
教育方法・技術論（ICT活用含む）	神田 恵美子	教職課程ということもあり、一人ひとりが目的意識を持って積極的に授業に臨んでくれました。Googleフォームやロイロノートなど新しい技術に柔軟に対応してくれました。反省としては、授業に使う技術の動画を事前にアップした際に、必ず見たことが分かるよう、小テスト等を設ければ、事前学習の時間が増えたと思います。この授業で学んだ知識を今後活かしてほしいです。
教育方法・技術論（ICT活用含む）	宮脇 郁	アンケートへのご協力、どうもありがとうございました。全体的にまずまずの評価であり、また、皆さんの満足度もそこそこ高く（Q15）、ほっとしています。が、改善すべき点も多々ありました。 ・わかりやすい授業を心がけていますが、説明のわかりやすさ（Q7）、教材のわかりやすさ（Q9）ともに高めの評価でよかったです。質問しやすさ（Q8）も昨年度より改善されました。これはmanabaの個別指導を活用し、かつ受講生の皆さんが積極的にコンタクトを取ってくれたためと考えられます。manabaは今後もどんどん活用していきます。 ・皆さんの学ぶ意欲が高めだったのはすばらしいです（Q16）。一方、「さらに学びたいか」はあまり高くないので（Q13）、この分野の必要性や魅力をもっと伝えていきたいです。 ・この授業の大きな特徴は、Zoomによる模擬授業を皆さんに実施してもらったことでした。自由記述の回答によると模擬授業が好評で、模擬授業を計画・実施することを通して、授業の組み立て方がわかったとの意見をたくさんいただきました。また、ICTを活用した教育を経験してもらうために、あえてZoomでの模擬授業を行いました。オンライン授業特有の難しさも感じてもらえたようです。ICTを活用した模擬授業の試みは、今後も続けていく予定です。 ・また、模擬授業だけでなく、いい教材に活用するさまざまな工夫をすみました。自由記述の回答では、こちらも好評でした。現代の教師にはICT活用力が強く求められているので、今後もこのテーマは充実させたいと思います。 ・グループワークを行う機会をできるだけたくさん作りましたが、これも好評だったので今後も続ける予定です。ただ、「質問がわかりにくい」というコメントがあったので、課題の指示をもっと明確にするよう心がけます。 皆さん半期の間どうもありがとうございました。機会があったらまた一緒に勉強しましょう。
教育方法・技術論（栄養）	宮脇 郁	短期集中で授業を実施したため、残念ながらアンケートを実施できませんでした。
教職研究 d	市毛 祐子	人に教えるためには、その何倍もの勉強が必要であることを実感したことと思います。これからも自分の専門はもとより、家庭科の他の領域もしっかりと指導できるよう貪欲に学び続ける姿勢を持ち続けてください。私も、皆さんがより意欲的に授業に臨むことができるよう、内容の精選や資料の提示の仕方について工夫・改善するとともに、教師の魅力を発信していきたいと思っています。
教職実践演習（栄養）	清田 夏代 白尾 美佳	評価の結果については概ね納得している。今後もより良い授業運営に努めていきたい。

【2023（後期）教職課程】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
教職実践演習（中・高）	中村 一哉	教育実習を終えて、教職課程の学び全体を振り返り、自己の課題を明らかにして解決したり、これからの教育の問題等への理解や自己の考えを深めたりすることが、本授業のねらいでした。教育実習を行うにあたって、事前に全体テーマと個人テーマを設定して臨んだため、事後の教育実習報告のプレゼンテーションでは、それぞれ異なる実習体験であっても、共通した課題を抽出し比較しながら相互に学び合うことができて、多様な学びへと発展させることができました。それが、今回の大きな収穫であったと感じています。その成果があったからこそ、今後の教育を見据えて問題を整理し、望ましい教育の在り方や教師像を考え、まとめる後半の授業では、KJ法を活用しながら全員で協議してまとめる全体提案と、それをベースとして個人で課題を追究する個人提案に分けて発表したことが、自然な流れとなったと感じています。教科教育法をスタートした2年半の学びの中で、一人一人が大きく成長したことを実感した半期の授業でした。皆さんのご活躍をお祈りしています。
教職実践演習（中・高）	清田 夏代	評価の結果については概ね納得している。今後もより良い授業運営に努めていきたい。
教職実践演習（中・高）	市毛 祐子	この科目では、これまでの教職課程の学びを振り返るとともに、教育実習の体験を踏まえ、自分に不足している力は何か、そしてそれを補うために何をすべきかを各自であらためて確認しながら、様々な演習を行ってきました。教職課程の集大成として、皆さんが各回の授業に関心をもち、意欲的に取り組み、ディスカッションやグループワークが活発に行われたことをとても頼もしく思っています。これから社会に出て様々な問題に直面した時に、この授業で得た学びが課題を解決する一助になればと願っています。
国語科教育法（１）	渡邊 重人	予習・復習時間の十分な確保に関する改善を図る所存です。これまでも、教材や授業スライドの事前公開などに取り組んできましたが、令和6年度は、教材研究のポイントを具体的に提示することによって、予習・復習に取り組みやすくなるよう改善します。
国語科教育法（４）	渡邊 重人	教育法(1)と教育法(4)の授業内容を比較すると、教育法(4)では模擬授業の回数が増えているため、本来は予習・復習時間も増えることが望ましいと考えます。模擬授業では、専用の学習指導案テンプレートを使用していますが、あくまで授業の流れを把握するためのテンプレートですので、皆さんの工夫による取り組みを積極的に加えてもらいたいと考えています。特に、作文指導や詩歌の学習指導については、生徒の興味関心を喚起する副教材、授業のリカバーとなる振り返りのためのワークシートなどを準備するとよいでしょう。こうした工夫をするためには、参考となる実践例の収集が欠かせません。そこで、2024年度は、manabaを通じた最新の実践例の紹介をいっそう充実させ、解説についても丁寧に行う所存です。
児童・生徒栄養教育論（２）	白尾 美佳	栄養教諭の勉強において皆さん方の模擬授業は大切になります。今後とも栄養教諭を目指すことができるよう本授業についても検討していきたいと思います。
特別支援教育論	早尾 美子	本授業は、特別支援教育や各種障害の特性や支援の基礎を学び、共生社会を目指す教師としての資質・能力を育成することをねらいとしました。分析結果を受け止め、課題である授業の進め方のスピードについては、初めに、授業内容と時間配分などを明確にし、見通しを持ちやすくします。またわかりやすさについては、提示する資料内容を精選し、丁寧に理解の確認するようにします。
美術科教育法（１）	中村 一哉	美術科教育法（１）は、美術科の教科教育法のスタートになるものです。最終的には、中学校や高等学校で、美術の授業が自信をもって指導できる力を養うことを目指していますが、この授業は授業の基盤としての学習指導要領の理解や人間の発達と美術、美術教育の流れや考え方など、ベースとなることを学ぶことが中心でした。中には理屈っぽい内容があり、毎回の課題などの負担があったかもしれませんが、後半には、美術教師としての心得や授業の考え方を実際の実技を通して学ぶことなど、楽しく学べるような工夫を取り入れてみて、それを3年生での次のステップにつなげていくようにしました。8名という学ぶにはちょうどよいメンバー構成で、ペアワークや相互発表など、一人一人が個性を発揮しながら、美術教育に親しんでくれたように受け止めています。特に、美術教育に関する学者の思潮を調べてまとめた発表は、短い時間で質の高い内容となっていました。2年次から対策講座に参加する人も多く、教職への思いが授業の雰囲気づくりや学修の充実を支えていると感じ、頼もしく思っています。皆さんの3年次での更なる学びの充実と成長に大きな期待を寄せています。
美術科教育法（４）	中村 一哉	「美術科教育法（４）」の授業は、教科教育法のまとめの授業であり、これまで段階的に学修してきた教科指導の総決算となるものです。同時に、4年次に実施する教育実習につなげていくための指導力、実践力を身に付けることが、この授業の最大の目標でした。美学美術史学科としては13名という大所帯の学年だったので、一人1単位時間の模擬授業を行なうことに無理があり、40分ずつで2人が模擬授業を行なうことが数回あり、やや不公平感が残ったかもしれません。しかし、グループ協議の時間を取り入れながら、指導案作成や授業の資料づくり、授業構想の立案などを、協働的に練り上げたことで、相互に学び合う学修環境が出来ていたように思います。学科の授業の課題なども多い中で、物事を進めていく要領や工夫が身に付いてきたことを感じました。まだ、不十分な点はありますが、そこは一人一人が教育実習に向けての課題として、実習を課題解決のチャンスにしてもらえればと思います。皆さんの次のステージの更なる成長に期待しています。